

701年「律令国家の完成祝う旗」

大宝元年(701年)の元日朝賀のイメージ(早川和子さん作画、奈良文化財研究所提供)



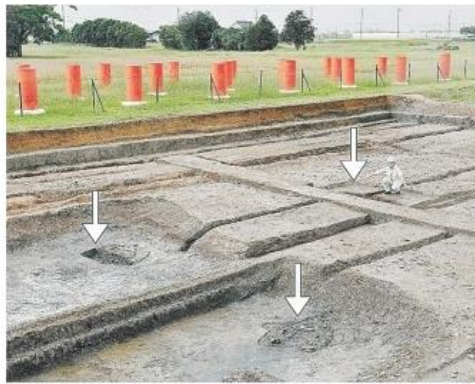
藤原宮跡 続日本紀の「柱穴」

日本初の本格的な都・藤原宮跡(奈良県橿原市)から、元日朝賀の儀式で飾る幢幡(旗)を知る大きな手掛かり

奈良・橿原

立てた柱穴が7カ所見つかり、奈良文化財研究所が28日、発表した。(29面に関連記事)

続日本紀にある「大」として注目される。前の広場跡で出土。1宝元年(701年)の7カ所の柱穴は、2・9の四方の柱穴を中心として、左右対称に儀式で7本の幢幡が立てられた」との記述と一致し、新体制をスタートさせた儀式の様子を知る大きな手掛かり



藤原宮跡で見つかった、元日朝賀で飾る幢幡を立てた柱穴の一部(矢印)=奈良県橿原市

確認された。続日本紀によると、大宝律令が完成した701年の元日、文武天皇が開いた儀式には臣下のほか、朝鮮半島の新羅の使節も参列。「正門にカラス形の幢、天極殿から見て」左には日像・青竜・朱雀の幢、右は月像・玄武・白虎の幢」と記されており、配置の特徴に合うという。

研究所によると、幢幡の遺構としては最古。平城宮(奈良市)や長岡宮、恭仁宮(いずれも京都府)など後の時代で柱穴は東西1列に並んでおり、701年の「初回」の配置と異なっていた。

現地説明会は10月2日午前11時〜午後4時。

① この記事は、「どこで、何がいくつ」見つかったと書いてあるのですか？

② ①のことは、続日本紀のどんな記述と一致するのですか？そこに線を引きましょう。

③ 幢幡(どうばん)は、どのような幡(旗)ですか？7種類答えなさい。

④ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。